

医学教育モデル・コア・カリキュラム（MCC）における項目

E 診療の基本 3 基本的臨床技能 (3)診療記録

一般目標：問題志向型診療録(POMR)と各種診療記録の書き方を学ぶ。

到達目標：

- 1) 診療録を POMR 形式で記載する方法を説明できる。
- 2) 診療経過を SOAP で記載する方法を説明できる。

コメント

診療記録の記載は医師の基本的な業務であるが、卒後研修においても、限られた時間内で重要な項目を明確に要領よくまとめ、他の医療関係者が理解しやすい形で記す必要があり、卒前実習でも充分学習する機会を得ることが望ましい。また、紹介状の記載等においては、適切な日本語の使用法も含め、医師になるまでにその記載法について十分な観察の機会を得ることが望まれる。また、CPC レポートの作成や症例提示には、疾患の病態生理から診断・治療の流れまで患者さんをより確実に理解していることが求められ、要点を絞りながら理解しやすく伝えなくてはならず、疾患や患者さんの状況の把握と医療チーム内のコミュニケーションという観点からも、卒前に数多く観察し、指導医の責任監督の下で、実際の作成にも一部参画する経験を得ることが望ましい。

(7)診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

	卒前実習		卒後研修
	MCC	研究班案	研究班案
1) 診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む。)を作成できる。		△	○
2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。		△	○
3) 入退院の適応を判断できる(デイサージャリー症例を含む。)		△	○
4) QOL(Quality of Life)を考慮にいれた総合的な管理計画(リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。)へ参画する。		△	○

医学教育モデル・コア・カリキュラム（MCC）における項目

E 診療の基本 3 基本的臨床技能 (1)問題志向型システム

一般目標：模擬症例について基本的診療計画を立てる。

到達目標：

- 1) 基本的診療知識にもとづき、症例に関する情報を収集・分析できる。
- 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。

3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。

4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立てられる。

F 医学医療と社会 (5) 保険・医療・福祉と介護の制度

一般目標: 保健、医療、福祉と介護の制度の内容を学ぶ。

到達目標:

5) 医療の質の評価(質の定義、クリティカル・パス)を説明できる。

コメント

診療ガイドラインやクリティカルパスの役割と意義を理解するとともに、患者さんの意向を配慮し、また患者さんの社会・文化・経済的背景も理解した上で、多様な背景を有する患者さんにより合致した診療計画を作成するプロセスを充分観察し学習するべきである。卒前実習においても、診療ガイドラインの利用法を学習した上で、個々の患者のニーズに対応できるような治療計画の考案にチームの一員として参加することが望まれる。また、卒前の実習においても、患者さんの病院外における生活に十分配慮し、患者の QOL について多面的に捉え、チームの一員として多職種横断的に話し合いながら考えてゆく経験ができることが望まれる。他職種と連携しそれぞれの業務内容を理解するとともに、多職種間のコミュニケーション能力を養うことが望まれる。

## Ⅱ 経験目標

### B 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

#### 記号の説明

MCC=医学教育モデル・コア・カリキュラム

△=指導医の指導と直接監督のもとに実施が許容されるもの(direct supervision)

○=指導医の指導のもとに状況によっては直接監督がなくとも実施が許容されるもの(indirect supervision)

◎=指導医の指導のもとに、直接監督がなくとも実施が許容され、○より高いレベルの目標が求められるもの

(注) MCC では最低限の目標を設定している。

#### 1 頻度の高い症状

	卒前実習		卒後研修
	MCC	研究班案	研究班案
1)全身倦怠感	△	○	◎
2)不眠	△	○	◎
3)食欲不振	△	○	◎
4)体重減少、体重増加	△	○	◎
5)浮腫	△	○	◎
6)リンパ節腫脹	△	○	◎
7)発疹	△	○	◎
8)黄疸	△	○	◎
9)発熱	△	○	◎
10)頭痛	△	○	◎
11)めまい	△	○	◎
12)失神	△	○	◎
13)けいれん発作	△	○	◎
14)視力障害、視野狭窄	△	○	◎
15)結膜の充血	△	○	◎
16)聴覚障害	△	○	◎
17)鼻出血	△	○	◎
18)嘔声	△	○	◎

19)胸痛	△	○	◎
20)動悸	△	○	◎
21)呼吸困難	△	○	◎
22)咳・痰	△	○	◎
23)嘔気・嘔吐	△	○	◎
24)胸やけ	△	○	◎
25)嚥下困難	△	○	◎
26)腹痛	△	○	◎
27)便通異常(下痢、便秘)	△	○	◎
28)腰痛	△	○	◎
29)関節痛	△	○	◎
30)歩行障害	△	○	◎
31)四肢のしびれ	△	○	◎
32)血尿	△	○	◎
33)排尿障害(尿失禁・排尿困難)	△	○	◎
34)尿量異常	△	○	◎
35)不安・抑うつ	△	○	◎

医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける項目(項目番号)

E 診療の基本 1 症候・病態からのアプローチ

一般目標: 主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて学ぶ。

(1) ショック

到達目標:

- 1) ショックの定義、原因と病態を説明できる。
- 2) ショック患者の診断の要点を列挙できる。
- 3) ショックの治療を概説できる。

(2) 発熱

到達目標:

- 1) 発熱の原因と病態生理を説明できる。
- 2) 発熱患者の診断と対症療法の要点を説明できる。

(3) けいれん

到達目標:

- 1) けいれんの種類と原因を列挙できる。

2)けいれん患者の診断の要点を概説できる。

3)けいれん発作時の初期治療を概説できる。

#### (4)意識障害・失神

到達目標:

- 1)意識障害・失神の原因を列挙し、その病態を説明できる。
- 2)意識障害の程度評価(コーマ・スケール)を説明できる。
- 3)意識障害・失神をきたした患者の診断の要点を説明できる。
- 4)意識障害・失神をきたした患者の治療を概説できる。

#### (5)チアノーゼ

到達目標:

- 1)チアノーゼの原因と病態を説明できる。
- 2)チアノーゼを呈する患者の診断の要点を説明できる。

#### (6)脱水

到達目標:

- 1)脱水の原因と病態を説明できる。
- 2)脱水をきたした患者の診断と治療の要点を説明できる。

#### (7)全身倦怠感

到達目標:

- 1)全身倦怠感をきたす原因を列挙できる。
- 2)全身倦怠感を訴える患者の診断の要点を説明できる。

#### (8)肥満・やせ

到達目標:

- 1)肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。
- 2)肥満・やせを呈する患者の診断の要点を説明できる。

#### (9)黄疸

到達目標:

- 1)黄疸の原因と病態を説明できる。
- 2)黄疸患者の診断と治療の要点を説明できる。



(10) 発疹

到達目標:

- 1) 発疹の種類と主な原因を列挙できる。
- 2) 発疹の所見を記述して分類できる。
- 3) 発疹患者の診断の要点を説明できる。

(11) 貧血

到達目標:

- 1) 貧血の原因、分類と病態を説明できる。
- 2) 貧血患者の診断の要点を説明できる。

(12) 出血傾向

到達目標:

- 1) 出血傾向の原因と病態を説明できる。
- 2) 出血傾向を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(13) リンパ節腫脹

到達目標:

- 1) リンパ節腫脹の原因を列挙できる。
- 2) リンパ節腫脹を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(14) 浮腫

到達目標:

- 1) 全身浮腫と局所性浮腫の原因と病態を説明できる。
- 2) 浮腫をきたした患者の診断と治療の要点を説明できる。

(15) 動悸

到達目標:

- 1) 動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。
- 2) 動悸を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(16) 胸水

到達目標:

- 1) 胸水の原因と病態を説明できる。
- 2) 胸水を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(17)胸痛

到達目標:

- 1)胸痛の原因と病態を説明できる。
- 2)胸痛患者の診断の要点を説明できる。
- 3)胸痛患者に対する初期治療を概説できる。

(18)呼吸困難

到達目標:

- 1)呼吸困難の原因と病態を説明できる。
- 2)呼吸困難の程度に関する分類を説明できる。
- 3)呼吸困難患者の診断の要点を説明できる。
- 4)呼吸困難患者に対する初期治療を概説できる。

(19)咳・痰

到達目標:

- 1)咳・痰の原因と病態を説明できる。
- 2)咳・痰を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(20)血痰・咯血

到達目標:

- 1)血痰・咯血の原因を列挙できる。
- 2)血痰・咯血を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(21)めまい

到達目標:

- 1)めまいの原因と病態を説明できる。
- 2)めまいを訴える患者の診断の要点を説明できる。

(22)頭痛

到達目標:

- 1)頭痛の原因と病態を説明できる。
- 2)頭痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(23)運動麻痺・筋力低下

到達目標:

- 1)運動麻痺・筋力低下の原因と病態を説明できる。
- 2)運動麻痺・筋力低下を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(24)腹痛

到達目標:

- 1) 腹痛の原因と病態を説明できる。
- 2) 腹痛患者の診断の要点を説明できる。
- 3) 急性腹症を概説できる。

(25)悪心・嘔吐

到達目標:

- 1) 悪心・嘔吐の原因と病態を説明できる。
- 2) 悪心・嘔吐を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(26)嚥下困難・障害

到達目標:

- 1) 嚥下困難・障害の原因と病態を説明できる。
- 2) 嚥下困難・障害を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(27)食思(欲)不振

到達目標:

- 1) 食思不振をきたす原因と病態を説明できる。
- 2) 食思不振を訴える患者の診断の要点を説明できる。

(28)便秘・下痢

到達目標:

- 1) 便秘・下痢の原因と病態を説明できる。
- 2) 便秘・下痢患者の診断の要点を説明できる。

(29)吐血・下血

到達目標:

- 1) 吐血・下血の原因と病態を説明できる。
- 2) 吐血・下血患者の診断の要点を列挙できる。
- 3) 吐血・下血患者の初期治療を概説できる。

(30)腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤

到達目標:

- 1) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤の原因と病態を説明できる。
- 2) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤のある患者の診断の要点を説明できる。



(31)タンパク尿

到達目標:

- 1)タンパク尿の原因と病態を説明できる。
- 2)タンパク尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(32)血尿

到達目標:

- 1)血尿の原因を列挙できる。
- 2)血尿をきたした患者の診断の要点を説明できる。

(33)尿量・排尿の異常

到達目標:

- 1)尿量・排尿の異常の原因と病態を説明できる。
- 2)尿量・排尿の異常をきたした患者の診断の要点を説明できる。

(34)月経異常

到達目標:

- 1)月経異常の原因と病態を説明できる。
- 2)月経異常を呈する患者の診断の要点を説明できる。

(35)関節痛・関節腫脹

到達目標:

- 1)関節痛・関節腫脹の原因と病態生理を説明できる。
- 2)関節痛・関節腫脹のある患者の診断の要点を説明できる。

(36)腰背部痛

到達目標:

- 1)腰背部痛の原因を列挙できる。
- 2)腰背部痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。

コメント

頻度の高い症状に関して、その鑑別診断のアプローチ法を知ることは全ての医師に求められる能力であり、その臨床実習は卒前から行われることが望ましい。疾患の頻度や症候学、病態生理、適切な臨床推論法に基づいた診断を行い、正しい適応を考慮した検査を実施することが求められ、卒前実習でも豊富な症例経験による学習機会を得ることが望まれる。

## 2 緊急を要する症状・病態

	卒前実習		卒後研修
	MCC	研究班案	研究班案
1) 心肺停止	△	○	◎
2) ショック	△	○	◎
3) 意識障害	△	○	◎
4) 脳血管障害	△	○	◎
5) 急性呼吸不全	△	○	◎
6) 急性心不全	△	○	◎
7) 急性冠症候群	△	○	◎
8) 急性腹症	△	○	◎
9) 急性消化管出血	△	○	◎
10) 急性腎不全	△	○	◎
11) 流・早産及び満期産	△	○	◎
12) 急性感染症	△	○	◎
13) 外傷	△	○	◎
14) 急性中毒	△	○	◎
15) 誤飲、誤嚥	△	○	◎
16) 熱傷	△	○	◎
17) 精神科領域の救急	△	○	◎

### 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける項目(項目番号)

#### G 臨床実習

#### 2 内科系臨床実習

#### (1) 内科

#### 一般目標:

基本的内科疾患を受け持ち、病態、症候、診断、治療と予後を学ぶ。

#### 到達目標:

- 1) 主要な疾患、症候や病態を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 2) 他科へのコンサルテーションが必要かどうか判断できる。
- 3) 複数の疾患をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。

実習形態: 内科系病棟・外来

症 例: 頻度の高い悪性新生物(肺癌、肝癌、悪性リンパ腫、白血病)

脳血管障害

パーキンソン病

肺炎

気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患<COPD>

狭心症・急性心筋梗塞

心不全

高血圧症

消化性潰瘍

肝疾患(急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変)

腎不全

尿路感染症

甲状腺機能亢進症

糖尿病

高脂血症

慢性関節リウマチ

鉄欠乏性貧血

(2)精神科

一般目標:

基本的な精神症状の評価の仕方、面接法を学ぶ。

到達目標:

- 1)精神科以外の一般診療科においても診療機会が多い精神障害に対する診断と治療の初期対応ができる。
- 2)精神症状をもつ患者の診療を行う上での、法と倫理の必須項目を列挙できる。
- 3)精神症状・精神障害の初期症状と、どのような場合に専門医へのコンサルテーションが必要か判断できる。

実習形態:精神科外来・病棟

(一般診療科においても診療機会が多い精神障害を学ぶために、外来、あるいは他科からのリエゾン・コンサルテーションを中心とするなど、実習形態を考慮することが望ましい)

症例(症候):気分障害

ストレス関連疾病・身体表現性障害

症状性・器質性精神障害

統合失調症

抑うつ・不安

睡眠障害(不眠)

せん妄

### (3)小児科

#### 一般目標:

基本的な小児科疾患を受け持ち、症候、診断、初期治療を学ぶ。

#### 到達目標:

- 1) 新生児、乳・幼児期、学童期、思春期の患者およびその家族と良好な関係を築いて、漏れのない正確な情報を取ることができる。
- 2) 小児の身体診察を適切に実施できる。

実習形態:小児科病棟・外来

症 例:てんかん・けいれん

発疹性疾患

上気道感染・肺炎

気管支喘息

先天性心疾患

白血病・悪性腫瘍

運動・精神発達の遅れ

成長障害・低身長

脱水・下痢・嘔吐

### 3 外科系臨床実習

#### (1)外科

#### 一般目標:

基本的な外科疾患を受け持ち、病態と、治療としての外科処置を学ぶ。

#### 到達目標:

- 1) 外科的処置の適応を判断し、リスク評価ができる。
- 2) 外科の基本的診察手技を実施できる。
- 3) 基本的な術前術後管理ができる。

実習形態:外科系病棟・外科系外来・手術室

症 例:外科的適応のある悪性腫瘍(胃癌、大腸癌、肺癌、乳癌)

急性虫垂炎

腸閉塞(イレウス)

腹膜炎

鼠径ヘルニア

痔疾患

胆石症・胆嚢炎

脊髄損傷

関節痛・関節腫脹

自然気胸

前立腺肥大

## (2)産科婦人科

一般目標:

基本的産婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、疫学、予防、病態、診断、治療と予後を学ぶ。

到達目標:

- 1) 正常の妊娠、出産と産褥の基本的な管理ができる。
- 2) 主な疾患、症候や病態を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。

実習形態:産科婦人科病棟・外来・手術室・分娩室

症例:【産科】正常妊娠・分娩・産褥

流産

早産

異常分娩

妊娠高血圧症

【婦人科】子宮・卵巣の腫瘍

骨盤内炎症性疾患

性行為感染症

子宮内膜症

子宮筋腫

更年期障害・不正性器出血

月経異常

不妊症

避妊指導

## 4 救急医療臨床実習

一般目標:緊急に対応すべき疾患の病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標:

- 1) 救急病態の救命治療を介助できる。

- 2) 初期救急病態を鑑別し、初期治療を介助できる。
- 3) 外傷の処置を介助できる。
- 4) 救急医療体制を説明できる。

実習形態：救急系外来・病棟、集中治療室など

症 例：

(重症救急病態)救命治療に参加する。

心肺停止

ショック

急性中毒

広範囲熱傷

多発外傷

(初期救急病態)鑑別ができ初期治療に参加する。(E参照)

発熱

脱水

けいれん

意識障害

頭痛

めまい

動悸

胸痛

呼吸困難

喀血

腹痛

嘔吐

吐血・下血

下痢

血尿

コメント

緊急を要する症状・病態に関して鑑別診断およびその基本的対処法を知ることは全ての医師に求められる能力であり、その臨床実習は卒前から行われることが望ましい。しかし、全ての緊急を要する症状・病態を学生が実際の現場で十分に学ぶことができないような項目もあると思われるので、シミュレーターや模擬患者を設定してのシミュレーション教育を通して学習できるような工夫を施したカリキュラムが望まれる。



### 3 経験が求められる疾患・病態

「3 経験が求められる疾患・病態」の項目のうち MCC では、G 臨床実習で記載された受け持つべき症例に基づいた。

#### (1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患

	卒前実習		卒後研修
	MCC	研究班案	研究班案
①貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)	△	○	◎
②白血病	△	○	◎
③悪性リンパ腫	△	○	◎
④出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群: DIC)		○	◎

#### 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける項目(項目番号)

##### C 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 1 血液・造血器・リンパ系

一般目標: 血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

##### (1) 構造と機能

到達目標:

- 1) 骨髄の構造を説明できる。
- 2) 造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。
- 3) 脾臓、胸腺リンパ節、扁桃とパイエル板の構造と機能を説明できる。
- 4) 血漿タンパク質の種類と機能を説明できる。
- 5) 赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
- 6) 白血球の種類と機能を説明できる。
- 7) 血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。

##### (2) 診断と検査の基本

到達目標: (検査はE2、身体診察はE3参照)

- 1) 血漿タンパク質の基準値とその変化の意義を説明できる。

##### (3) 症候

(【発熱】【全身倦怠感】【黄疸】【出血傾向】【腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤】【チアノーゼ】【貧血】【リンパ節腫脹】はE1参照)

##### (4) 疾患

##### ①貧血

到達目標:

- 1) 貧血を分類し、鑑別に有用な検査を列挙できる。
- 2) 鉄欠乏性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。
- 3) 再生不良性貧血の病因、病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 4) 溶血性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。
- △5) 巨赤芽球性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

## ②白血球と類縁疾患

### 到達目標:

- 1) 急性白血病の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。
- 2) 急性白血病の FAB 分類を概説できる。
- 3) 慢性骨髄性白血病の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。
- 4) 骨髄異形成症候群の臨床像を説明できる。
- △5) 成人 T 細胞白血病の病因、疫学、臨床所見を説明できる。
- △6) 小児白血病と成人白血病の違いを説明できる。
- △7) 真性多血症の病因、病態、診断と治療を説明できる。

## ③悪性リンパ腫と骨髄腫

### 到達目標:

- 1) 悪性リンパ腫の分類を概説し、病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。
- 2) 多発性骨髄腫の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。
- △3) 単クローン性免疫グロブリン血症を概説できる。

## ④出血傾向・紫斑病その他

### 到達目標:

- 1) 出血傾向の病因、病態、症候と診断を説明できる。
- 2) 特発性血小板減少性紫斑病の病態、症候、診断と治療を説明できる。
- 3) 血友病の病態、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。
- 4) 播種性血管内凝固(症候群)(DIC)の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。
- △5) 溶血性尿毒症症候群(HUS)の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。
- △6) アレルギー性(血管性)紫斑病を概説できる。
- △7) 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)を概説できる。

## ⑤脾臓疾患

### 到達目標:

- 1) 脾腫をきたす疾患を列挙し、鑑別の要点を説明できる。

(2) 神経系疾患

	卒前実習		卒後研修
	MCC	研究班案	研究班案
①脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)	△	○	◎
②認知症疾患	△	○	◎
③脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)	△	○	◎
④変性疾患(パーキンソン病)	△	○	◎
⑤脳炎・髄膜炎		○	◎

医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける項目(項目番号)

C 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 2 神経系

一般目標: 神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

(1) 構造と機能

①神経系の一般特性

到達目標:

- 1) 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。
- 2) 脳の血管支配と血液・脳関門を説明できる。
- 3) 脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。
- 4) 主な脳内神経伝達物質(アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン、グルタミン酸)とその作用を説明できる。
- 5) 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。

②脊髄と脊髄神経

到達目標:

- 1) 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。
- 2) 脊髄反射(伸張反射、屈筋反射)と筋の相反神経支配を説明できる。
- 3) 脊髄神経と神経叢(頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢)の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。

③脳幹と脳神経

到達目標:

- 1) 脳幹の構造と伝導路を説明できる。
- 2) 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。
- 3) 脳幹の機能を概説できる。

#### ④大脳と高次機能

到達目標:

- 1) 大脳の構造を説明できる。
  - 2) 大脳皮質の機能局在(運動野・感覚野・言語野・連合野)を説明できる。
- △3) 記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。

#### ⑤運動系

到達目標:

- 1) 随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。
- 2) 小脳の構造と機能を概説できる。
- 3) 大脳基底核(線条体、淡蒼球、黒質)の線維結合と機能を概説できる。

#### ⑥感覚系

到達目標:

- 1) 表在感覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。
- 2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。

#### ⑦自律機能と本能行動

到達目標:

- 1) 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。
- 2) 視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。
- 3) ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。

#### (2)診断と検査の基本

到達目標:

(検査はE2、身体診察はE3参照)

- 1) 脳・脊髄 CT・MRI 検査で得られる情報を説明できる。
  - 2) 神経系の電気生理学的検査(脳波、筋電図、末梢神経伝導速度)で得られる情報を説明できる。
- △3) 脳血管撮影検査で得られる情報を説明できる。  
△4) 神経・筋生検で得られる情報を説明できる。

#### (3)症候

(【意識障害・失神】【頭痛】【運動麻痺・筋力低下】【けいれん】【めまい】はE1参照)

#### ①運動失調と不随意運動

到達目標:

- 1) 小脳性・前庭性・感覚性運動失調を区別して説明できる。

2) 振戦を概説できる。

△3) その他の不随意運動(ミオクローヌス、舞蹈運動、ジストニア)を概説できる。

## ②歩行障害

到達目標:

1) 歩行障害を病態にもとづいて分類できる。

## ③言語障害

到達目標:

1) 失語症と構音障害の違いを説明できる。

△2) 言語障害を病態にもとづいて分類できる。

## ④頭蓋内圧亢進

到達目標:

1) 脳浮腫の病態を説明できる。

2) 急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。

△3) 脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。

## (4)疾患

### ①脳・脊髄血管障害

到達目標:

1) 脳血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)の病態、症候と診断を説明できる。

2) 一過性脳虚血発作の病態を概説できる。

△3) 脳血管障害の治療とリハビリテーションを概説できる。

△4) 脊髄血管障害を概説できる。

### ②認知症と変性疾患

到達目標:

1) 認知症の病因を列挙できる。

2) 認知症をきたす主な病態(アルツハイマー病、脳血管性認知症)の症候と診断を説明できる。

3) パーキンソン病の病態、症候と診断を説明できる。

△4) 筋萎縮性側索硬化症を概説できる。

△5) 脊髄小脳変性症を概説できる。

### ③感染性・炎症性・脱髄性疾患

到達目標:

1) 脳炎・髄膜炎の病因、症候と診断を説明できる。



2) 多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。

△3) 脳腫瘍を概説できる。

#### ④ 脳・脊髄腫瘍

到達目標:

1) 主な脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位を説明し、病態を概説できる。

#### ⑤ 頭部外傷

到達目標:

1) 頭部外傷の分類を説明できる。

2) 急性硬膜外・硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。

3) 慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。

△4) 頭部外傷の治療とリハビリテーションを概説できる。

#### ⑥ 末梢神経疾患

到達目標:

1) ニューロパチーの病因(栄養障害、中毒、遺伝性)と病態を分類できる。

2) ギラン・バレー症候群の症候、診断を説明できる。

△3) ベル麻痺の症候、診断と治療を説明できる。

△4) 主な神経痛(三叉・肋間・坐骨神経痛)を概説できる。

#### ⑦ 筋疾患

到達目標:

1) 重症筋無力症の病態、症候と診断を説明できる。

2) 進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候と診断を説明できる。

3) 周期性四肢麻痺を概説できる。

△4) ミトコンドリア脳筋症を概説できる。

#### ⑧ 発作性疾患

到達目標:

1) てんかん(小児を含む)の分類、診断と治療を説明できる。

△2) ナルコレプシーを概説できる。

#### ⑨ 先天性と周産期脳障害

到達目標:

1) 脳性麻痺の病因、病型、症候とリハビリテーションを説明できる。

2) 水頭症の種類、症候と診断を説明できる。